

2015（平成27）年度 はあとスペース 活動報告

2015年を振り返って

2011年2月の飲酒運転事故から五年が経ちました。

飲酒運転根絶に向けて、ただただ、走り続けてまいりました。日々手探りの状況のなか、沢山の方々に支えられたからこそ、取り組みを継続できていると改めて感じます。

皆様からの暖かいお声掛けを頂くと共に、ご支援を賜らなければ、立ってられない五年間だったと思います。本当にありがとうございました。

さて、2015年度のはあとスペースは、暗中模索ではなく、今後の活動方針を含め、進むべき方向性を決める大切な一年だった気がいたします。それと同時に、新たな取り組みにも着手させていただきました。以下、簡単にご紹介させていただきます。

飲酒運転根絶に向けて本気で語る『150人のしゃべり場』

福岡県からの委託事業である『福岡県飲酒運転相談窓口の設置』

地域の皆様に自由に使っていただく『まちかど図書館の運営』

大切な人を亡くされた方へ想いを花で癒す被害者支援事業『ひまわりプロジェクト』

子どもたちにも正しいお酒の知識を普及させるためのテキスト『お酒知っとこ情報の制作』

これらの取り組みから、今年度は、医療や回復施設との「連携」が重要であることに気づくことができました。こうして見ますと、本当にめまぐるしい一年間でした。そして、これらの活動で何が本当に大切なのか、少しずつ答えが見えてきたように感じます。

そのひとつが「教育」だということです。

既にお酒を飲んでいる大人たちには、アルコールによる健康障害を起こさないための、お酒との上手な付き合い方を知っていただく必要があります。病気にならないための一次予防を図ることは言うに及ばず、国レベルでの取り組みも始まりました。

さらに注目すべきは、まだお酒を口にしない子どもたちへの教育です。お酒の正しい知識を伝えること、いわゆるゼロ次予防とも言うべき取り組みが、実は肝要と言えるのではないのでしょうか。この子ども達が近い将来、我が国の飲酒文化を変えてくれるものと信じ、見守って行きたいと思っています。

加えてもうひとつ、何らかの物質（行為を含む）に依存してしまっている人たちにも、「回復があるということへの理解」が進むことを望みたいのです。なぜか、近頃の日本という国は、一度レールから外れると、元のレールには戻ることがとても困難な国になっているようです。例えば、少しゆっくり進んでほしいと思っても、一度快速列車に乗ってしまったら、それを鈍行に乗り換えることが困難です。「みんな違ってみんないい」と、個性を尊重する考え方の一方で、少しでもみんなと違うと、弾き飛ばされるような風潮があります。社会の二極分化が進んでいることが、「生きづらさ」を生み出していないのでしょうか。

もしかしたら、その先に「犯罪」が生まれてしまうのかもしれない。

『被害者も加害者も生み出さない社会作りを目指す。』それは、私たちの信条です。

当初から揺らぐことのないスローガンでもあります。そのために、この「教育」と「理解」を当法人の活動の核とし、2016年度も邁進して行く所存でございます。

皆様方の暖かいご支援を今後ともよろしくお願いいたします。

NPO法人 はあとスペース
代表 山本 美也子
スタッフ 一同